

【チーム東小松川小の行動指針→〇担当職務のマネジメント〇コーディネート〇リーダーシップ】

融合 fusion：伝統と革新が結びついて統一体になっていること 承前啓後：昔からのものを受け継いで、未来を切り開くこと

東京都教育委員会の教育目標
江戸川区教育委員会の教育目標
江戸川区がめざす子ども像

学校教育目標
ひがこまっ子は みんな仲よし 夢がある
〇思いやりのある子（徳）〇考える子（知）
〇しょうぶな子・やりぬく子（体）
である東小松川小の子

教師の醍醐味：創造と感化 教師も自己実現を！

コロナウィルス感染症渦でも
教育の質を毎年高めていく学校
仮校舎での新しい生活スタイルの確立

～【日々の授業が第一！】～

「以前はこうだった」から
「より良い新スタイル」へ

学校内ではファミリー
困っていることは
皆で協力・支援
（当事者意識を）

確かな学力の定着 ※「学力」のとらえ方を一致する

人としての生き方の習得

全員がリーダーという意識をもつチーム東小松川小

子供と真摯に向き合う姿勢

学年・専科経営の充実

主幹・主任教諭のリーダーシップ

- ◎1役1人の責任執行制→事案決定規定に基づく決裁
- ◎1人1人が→担当職務のリーダー→提案までにコミュニケーション力を発揮
- ◎各分掌ごとの具体的な達成目標の設定・明確化
- ◎主幹・主任を中心とした進行管理→マネジメント・コーディネート・リーダーシップ
- ◎担当者の提案尊重で責任と成就感を得て、更なる自信と職能の幅を獲得

経営・企画会議を核とする組織経営

- ◎課題・問題点の共有→解決策の合意形成→担当者（リーダー）のリーダーシップのもと全員で解決

チーム東小松川小はプロの教員集団

学び合う教員集団

- ◎組織の一員としての行動徹底、謙虚に高め続ける姿勢
- 同一方向→どの教員でも同質の教育保証
- ◎ミス共有できる教員集団へ
- トラブルから学ぶ→改善へ→教師力向上
- ◎“学びの共有”
- 「東小松川小OJT」の実施

→「伝え合う」場の設定・実施

校内若手教員の育成

- ◎社会人として・教育公務員（教師）として
- ・社会人としての常識を実際の姿に表す

◎初年度赴任者のフォロー

- 教員としての心構えや研修法の伝達・協力・支援
- 若手研修会
- 「いじめ」は絶対許さない
- 早期水検見・地道でコツコツ 不登校対応

授業の「質」を上げる（ねらいの達成）

- ◎指導と評価の一体化
- ・明確なねらい ・的確な学習活動
- ・評価の工夫：見取りの方法
- ◎研究成果を活用した授業実践
- ・言語能力向上拠点校

- ・発信力を高める言語わざ、シラバス
- ・ひがこま小方式の確立
- ・自ら進んで行う研究・研修

習熟度別指導 <算数、他>

- ◎円滑な推進と効果検証
- ・ベーシックドリルの活用
- ・都・区学力調査の分析・対策法
- ・児童一人一人の伸びを可視化し追跡調査

都レガシー認定校としてのオリンピック教育と
区グリーンプラン推進校の推進

- ◎オリビズム・歴史や意義・果たす役割・国際理解 等
- ◎体育科授業の改善・工夫→課題・目的・全教員の一致の姿（基本行動）
- ◎蓮田等を中心とした体験・探究活動と環境教育の充実



保護者・地域の学校づくりへの参画

保護者・地域との信頼関係の確立

- ◎保護者・学校関係者による評価の活用
- ◎積極的な情報発信（HPの充実）
- ◎保護者・地域との信頼関係の深化
- “スピード”と“誠意”ある対応
- ◎地域行事への参加（中央地域祭り等）

- ◎新校舎への移転・開校記念式典と行事計画
- ◎学校保健員会の充実

学習環境の整備・充実

- ◎各教室等内の整備・充実
- ◎校内・校外の美化活動
- 危険要素の排除 等
- ◎GIGASchool構想の推進

教育環境の整備

児童の安全・安心の確保

- ◎見守り等登下校の対応体制
- ◎子供の「遊び」を見守る
- ◎実践的な防災教育

<状況や節目としての重点課題対応>

- 1、 新型コロナウイルス感染症に対応した教育活動から新たな教育活動への転換
- 2、 仮校舎での新たな学校生活スタイルの確立と徹底
- 3、 教科担任制の導入と行事等の精選と創作
- 4、 GIGASchool 構想の迅速な推進と ICT 環境の充実

自ら考え行動する力

<自分の命は自分で守る>

- ◎川に囲まれた地域としての防災教育
- ・周田や他の過去の災害、日常的な安全指導
- ・体験的・問題解決学習の工夫・充実
- ・個に応じた組織的なアレルギー対応

良好な人間関係の確立

<児童の心の安定を図る>

- ◎心の拠り所となる学級づくり
- 一人一人の居場所づくり
- 児童との個人面談の実施
- 支援員、SCによるきめ細やかな対応
- ◎人権意識に基づく児童理解
- ◎「縦割り班」活動の充実 縦割り活動で自己実現
- ◎「学校満足度」調査の実施（人権感覚の醸成）

個に応じた特別支援教育の推進

- ◎自他の違いを認め合う風土の醸成
- ・地域に白鷺特別支援学校がある利点を生かし、障害理解教育の推進
- ・支援計画・方法の随時改善
- ・保護者、関係機関との連携強化

基本的な生活習慣の確立

- ◎ルールを守ること・規範意識の向上
- ・生活目標・毎学期末（学校生活・児童の生活）の自己評価→分析
- 考察→改善→一致しての組織的な指導へ
- ・学校全体で統一した生活指導（ひがこまスタイル）の徹底→評価→改善
- コロナ渦での子供の家庭環境を考慮する（子供を通して家庭を見る）

保・幼・中との連携教育

- ◎隣接の強み（新1年保・幼との聞き取り）
- ・中学とのはず田交流地・連携の目的統一と方法の模索

地域貢献

- ◎学校応援団と地域応援団
- ・ウィンウィン関係